

# 三田市民病院

## 公立医療機関等2025プラン

平成29年 3月 策定

平成31年 3月 追記

【三田市民病院の基本情報】

医療機関名：三田市民病院

開設主体：三田市

所在地：三田市けやき台3丁目1番地1

許可病床数：

（病床の種別）一般：300床

（病床機能別）高度急性期：7床

急性期：293床

稼働病床数：

（病床の種別）一般：300床

（病床機能別）高度急性期：7床

急性期：293床

診療科目：内科・腎臓内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科・消化器外科

・整形外科・眼科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・形成外科・産婦人科

・耳鼻いんこう科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科・病理診断科

職員数：2017年4月1日時点 常勤

- ・ 医師：71
- ・ 看護職員：285
- ・ 医療技術職：76
- ・ 事務職員：26

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

1) 地域の人口及び高齢化の推移

2010年の三田市人口は、約114千人であるが、2015年をピークに減少し始め、2040年には、100千人を下回ると試算されている。この人口減少率は、全国と比べて緩やかであるが、高齢化率は急速に高まると示されている。

三田市・近隣地域の人口動態について



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」より

2) 地域の医療需要の推移(三田市における将来推計の患者数)

三田市の将来推計患者数について、2010年に比べて入院・外来いずれも増加すると見込まれている。特に入院において、2040年は2010年の約1.8倍と試算されている。一方、外来については、2030年をピークに、その後緩やかな減少が見込まれる。



1日あたり将来推計患者数

(単位：人)		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
外来	患者数	6,346	6,720	7,050	7,336	7,530	7,526	7,409
	増減数		375	704	990	1,184	1,180	1,063
入院	患者数	877	1,021	1,154	1,285	1,410	1,532	1,617
	増減数		144	277	408	533	655	741

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」より

平成23年度患者調査「都道府県別・疾病大分類別・性別・年齢区分別受療率」より

### 3) 4機能ごとの医療提供体制の特徴

兵庫県における2次医療圏域別の稼働病床数の状況と将来推計に基づく必要病床数との乖離について、阪神北医療圏は、261床と病床過剰地域である。特に急性期病床では、1,215床の過剰である。一方、回復期病床数は、898床不足である。

圏域名	市町村区	稼働 病床数	2025年 必要数	過不足
兵庫県		52,516	52,455	61
<b>阪神北保健医療圏</b>	<b>伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町</b>	<b>6,831</b>	<b>6,570</b>	<b>261</b>
<b>阪神北保健医療圏</b>				
高度急性期	(急性期の患者に対して、医療密度が特に高い医療提供)	233	497	-264
急性期	(急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けての医療提供)	3,105	1,890	1,215
回復期	(急性期を経過した患者への在宅復帰に向けたリハビリ)	820	1,718	-898
慢性期	(長期にわたり療養が必要な入院患者)	2,673	2,465	208

三田市内医療機関の稼働病床数について ～病床機能報告（平成28年度）～

医療機関名称	①高度急性期	②急性期	③回復期	④慢性期	計 ①～④
三田市民病院	7	293			300
独立行政法人国立病院機構兵庫中央病院		100	50	300	450
医療法人社団尚仁会 平島病院		55		102	157
あおぞらクリニック		19			19
医療法人社団 和敬会 さんだりハピリテーション病院		9	60		69
医療法人敬愛会 三田温泉病院				180	180
医療法人敬愛会 三田高原病院				360	360
三田市内 合計	7	476	110	942	1,535
阪神北保健医療圏（稼働病床数）	233	3,105	820	2,673	6,831
構成比	3%	15%	13%	35%	22%

### ② 構想区域の課題

課題及び具体的施策 ～兵庫県地域医療構想の概要 一部抜粋～

【阪神北圏域】

項目	圏域の現状と課題	具体的施策
病床の機能分 化・連携の推 進	②公立・公的病院等のあり方（がん対策、感染症対策含む）	* 三田市民病院は、圏域内での地域特性を踏まえ、2次医療圏域に限定しない再編統合も視野に入れた連携と今後のあり方を検討
	③他府県・他圏域との医療機能連携と患者の流出入  ・三田市は、当圏域外の生活圏域である市町との患者の流出入が大きく、従前から救急医療等による医療連携がされている。 (三田市は神戸市、丹波市等との医療連携。)	・限られた医療資源の中で、地理的条件に応じた他府県、他圏域との医療連携を引き続き柔軟に実施  (三田市は従前から小児救急医療、周産期医療圏域が神戸市と同一圏域、また、急性心筋梗塞や脳血管疾患対策は阪神・丹波が同一医療圏域で、実情にあった圏域設定)

当院の入院患者の割合は、68%が三田市内、32%が市外在住者である。市外からの入院患者内訳は、丹波市・篠山市から11%、神戸市北区と西宮市から9%、三木市から3%であり、阪神北圏域（宝塚市、伊丹市、川西市、猪名川町）からは僅か2%である。すなわち、市外からの入院患者32%の内、30%が阪神北圏域以外からである。また、救急車による搬送受入れ状況は、市内から82%、市外からは18%である。市外からの受入れ状況は、丹波市・篠山市から6%、神戸市北区から3%、その他地域から9%である。三田市内で発生した救急車搬送のうち当院へ55%、当院以外の市内施設へ14%、市外への搬送が31%である。救急車搬送に関して、地域特性から考慮し、市外からの搬送も受入れながら市内にて発生する救急搬送応需率も上げていくため、ハード面の整備やマンパワーの充足に努めていかなければならないという課題がある。

< 医療分野別の医療圏での市民病院の役割 >

分野	二次医療・広域圏域	三田市民病院の役割
救急	阪神北・神戸・その他	急性期の基幹的病院
脳疾患	阪神北・神戸・その他	急性期の基幹的病院
急性心筋梗塞	阪神北・神戸・その他	急性期の基幹的病院
がん	阪神北・神戸・その他	専門的ながん診療の機能を有する医療機関
糖尿病	阪神北・その他	糖尿病の急性増悪時治療を担う医療機関
小児	神戸・三田	神戸市の病院と連携
周産期	神戸・三田	神戸市の病院と連携

地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割について

地域中核病院として、在宅療養患者などの急性増悪等に対応するための急性期病床の機能を充実させ、急性期入院治療を中心に、訪問看護、ケアマネジャー等の他職種が連携し、円滑な入退院システムを実現するための機能を推進する。

### ③ 自施設の現状

#### <基本理念>

良質な高度医療で、地域に安心をもたらします

#### <基本方針>

- 1.ハイレベルのチーム医療で患者さんを支えます
- 2.救急医療を充実させ、中核病院の役割を果たします
- 3.急性期医療を担い、地域連携を推進します
- 4.経営基盤を強化し、病院機能を向上させていきます
- 5.高い技術と倫理観をもった医療人を育成します

#### 診療活動状況の報告

入院	2014年度	2015年度	2016年度
新入院患者数	7,154	7,309	7,826
延べ入院患者数	87,039	81,457	88,156
1日平均患者数	238.5	222.6	241.5
平均在院日数	11.1	10.2	10.3
病床利用率 (%)	79.5%	74.2%	80.5%

入院関連	2014年度	2015年度	2016年度
手術件数 (年間)	3,037	3,133	3,059
全身麻酔件数	1,466	1,783	1,876
分娩件数 (年間)	438	368	331
救急搬送件数	2,068	2,390	2,941

外来	2014年度	2015年度	2016年度
外来 初診	18,144	17,740	17,559
延べ患者数 再診	139,147	139,603	133,930
総数 計	157,291	157,343	151,489
1日 初診	74.4	73.0	72.3
平均患者 再診	570.3	574.5	551.2
総数 計	644.6	647.5	623.4

紹介率・逆紹介率	2014年度	2015年度	2016年度
紹介率	54.1%	57.8%	64.1%
逆紹介率	83.3%	92.8%	102.0%

MDC	MDC別	症例数/月平均			平均在院日数		
		2014年度	2015年度	2016年度	2014年度	2015年度	2016年度
1	神経系疾患	21.2	20.2	26.2	27.0	18.8	19.4
2	眼科系疾患	21.1	19.9	21.8	4.3	4.3	4.2
3	耳鼻咽喉科系疾患	30.3	34.1	36.8	10.7	9.9	8.8
4	呼吸器系疾患	24.7	26.2	32.2	13.0	13.3	13.4
5	循環器系疾患	↑ 79.8	↓ 81.8	↑ 88	11.4	11.6	10.6
6	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	↑ 165.4	↓ 173	↑ 174.3	9.8	9.2	8.6
7	筋骨格系疾患	20.5	18.3	19.3	22.5	21.3	22.4
8	皮膚・皮下組織の疾患	12.2	17.3	20.3	15.4	15.0	11.8
9	乳房の疾患	5.3	4.5	5.8	12.5	9.3	10.4
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	15.8	15.1	16	13.4	14.0	12.2
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	41.9	↓ 43.4	↑ 50.4	12.0	10.8	12.2
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	30.2	27.3	24.1	7.7	8.1	7.8
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	6.3	4.6	5.3	24.1	17.9	15.9
14	新生児疾患、先天性奇形	8.8	8.1	7.2	6.1	6.0	6.3
15	小児疾患	4.8	5.1	7.2	7.5	5.5	5.9
16	外傷・熱傷・中毒	↑ 57.6	↓ 56.9	↑ 66.9	16.5	14.6	14.6
17	精神疾患	0.9	2.2	2.7	5.6	3.2	1.8
18	その他	10.8	11.9	15.4	21.5	17.3	15.3
99	全体	557.3	↓ 569.8	↑ 619.6	12.4	11.4	11.1

#### ④ 自施設の課題

2025年における当院の具体的な将来像については、三田地域の医療需要と今後の少子高齢化や人口減少に伴う医療圏域を考えた場合、阪神北圏域内での地域連携は現状に即しておらず、神戸医療圏域や丹波医療圏域の一部を合わせた人口約30万の医療圏、すなわち三田市（人口11.4万）、篠山市（人口4.4万）、神戸市北区の北部地域（4.5万）、その他周辺地域を合わせた地域を改めて想定・構築することが望ましいと考える。当院はこの医療圏にて、2次から2.5次の救急医療を先導的な役割として担う地域の中核病院として、高度急性期及び急性期を中心とした医療機能の向上を図るため、統合・再編も視野に入れた連携のあり方を今後、検討する。

また、この医療圏で医療介護連携の推進を図ると共に、急性期病床等の統合再編による医療資源の適正化を図り、いわゆるマグネットホスピタルを目指すことが最善と考える。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 1) 救急・急性心筋梗塞・脳疾患について、急性期の基幹的病院として機能を維持する。
- 2) 小児・周産期については、兵庫県保健医療計画にある神戸市・三田市域を小児医療連携圏域、周産期医療連携圏域として位置づけ、神戸市北区にある済生会兵庫県病院との連携維持。
- 3) 慢性期、回復期について、兵庫中央病院、平島病院、さんだりハビリテーション病院、ささやま医療センター等、関連圏域も含めた医療連携の推進を図る。
- 4) 地域医療支援病院として、在宅医療の提供者間の連携の緊密化のための支援、患者又は地域の医療提供施設に対する在宅医療の提供者に関する情報提供等、在宅医療の提供の促進に関し必要な支援を行う。
- 5) がん診断・治療については、地域内で完結できるように診療体制の強化を目指す。
- 6) 糖尿病については、早期治療・合併症治療・治療継続による良質な医療の提供を目指す。

5 疾病5事業等別の医療機能

今後地域において担うべき役割											
がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	その他
○	○	○	○		○			○	○	○	

※第4回地域医療構想調整会議（2019年3月22日開催）での合意により追記

② 今後持つべき病床機能

2次から2.5次の救急医療を先導的な役割として担う地域の中核病院として、高度急性期及び急性期を中心とした医療機能の向上を図る。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	7	→	7
急性期	293		293
回復期			
慢性期			
(合計)	300		300

<(病棟機能の変更がある場合) 具体的な方針及び整備計画>

<年次スケジュール(記載イメージ)>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-right: 10px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">                     集中的な検討を促進 2年間程度で                 </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; margin-bottom: 10px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">                         第7期 介護保険 事業計画                     </div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 10px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">                         第7次 医療計画                     </div> </div> </div>
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

⑤ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床稼働率 : 84.5%</li> <li>・ 手術室稼働率 : 67.0%</li> <li>・ 紹介率 : 70%</li> <li>・ 逆紹介率 : 90%</li> </ul> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費率 : 62.5%</li> <li>・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合</li> </ul> <p>その他</p>
--

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】  
(自由記載)

変更履歴

2017年3月策定

2019年3月追記

【2. 今後の方針】①地域医療において担うべき役割（4）～6）、5疾病5事業等別の医療機能の表